

## 追 悼 の 辞

中村英雄教授は平成7年9月27日に逝去された。お誕生日でもある敬老の日9月15日に、ご自宅で家族の皆様から70歳のお祝いをうけられ、直後に入院、そのまま帰らぬ人となったのであった。枕もとには、入院直前に完成された原稿『ジョン・ローの周辺』が残された。それは病魔との闘いに勝利した研究者中村英雄の声なき雄叫びであり、病魔に敗れた人間中村英雄の生きた証であった。心からの尊敬の念をこめて、私たちは中村先生のみ霊にお別れした。

巻末に掲載した先生の略歴をみると、戦中戦後の激動の波に先生も翻弄された様子がありありと見える。青森県三戸に生まれ、満州事変の翌年小学校に入学、日支事変開始の翌年中学校に入学、東京物理学校（現理科大）に進学されるが兵役のため休学、敗戦後復学、卒業して中央大学経済学部に進まれるが（昭和23年）、そのかわり、千代田区立麹町中学校で数学教諭として教鞭をとっておられた。まだ、日本中が飢えていた時代で、学生も稼がなければ学業を続けられなかった。物理学校は、入学は容易だが卒業の困難な学校として有名であり、物理学校出身の数学教師達は最も水準の高いプロ集団として知られていた。校務もしたがってきつかったにちがいない。経済学部の学生で同時に中学の数学教師というこの二足の草鞋は、いかに元気な中村先生といえども、かなり体にこたえるものではなかったかと思う。しかし、私は34年におよぶ中村先生とのお付き合いの中で、この頃の苦労話だけは一度も聞いたことがなかった。苦労を苦労としないほど、若さに溢れた青年学徒中村英雄であったことだろう。

## 追 悼 の 辞

中央大学大学院経済学研究科博士課程をおえられた先生は、昭和33年4月成城大学に専任講師として就任された。その後の成城大学でのご活躍や、研究活動、財政学会その他での学会活動の詳細等は巻末の略歴および業績一覧に譲りたい。全国に吹き荒れた学園紛争の最中の学生部長を二度にわたってつとめられ、その後学部長として神経をすり減らし、しかもそうした中で学位論文をはじめ数多くの著書、論文を次々と発表された。高垣寅次郎先生の貴重このうえない膨大な蔵書を漏れなく成城大学に頂いた長年のご努力には、われわれ一同心から敬服している。この蔵書を基本財産とする経済研究所の初代所長としてのご活躍は、まだわれわれの記憶に新しい。「高垣文庫の蔵書目録を完成しなければ死んでも死にきれない、何としても作りあげたい」といわれた先生の声はまだ私の耳の中に鳴っている。

数年前、中村先生の奥様が私に、ぽつんと、こうおっしゃった。「以前の中村は、何が何でも成城大学。もう、家のことも子供のことも、まったく二の次でした」と。そう伺ったのは、中村先生の世話で成城大学経済学部に来ていたあるネパールの研究者の成城の宿舎で、盆の入りの日。中村先生ご夫妻と一緒にネパールの家庭料理をご馳走になった時のことであった。その時、先生がネパールの大変利発なお子さんと愉快このうえないといった調子で遊んでおられるのを見て、奥様は、あまりお子さんと遊ぶ暇のなかった中村先生の獅子奮迅ぶりを思い出されたのであろう。

経済研究所長の任期をおえられてからの先生は、高垣文庫総目録の完成という宿願は残っているにせよ、ジョン・ローを追いかけるのが一番の関心事であつたろうと思う。そのゆえか、成城学園教育研究所の所長に推薦した時は、「まだ人に仕事をさせるのか」と最初少々ご機嫌斜めだった（少なくとも私には）。しかし、就任してからの先生は、研究所の成城学園における重要性を所員にも他の教員にも説いてやまなかった。日ごとに熱心さが加わったといえるかもしれない。所長を突然失って、所員たちが茫然としていたのも無理はない。

## 追 悼 の 辞

中村先生がお亡くなりになって早くも一年有半，この間に『ジョン・ローの周辺』は千倉書房から成城大学経済学部研究叢書として刊行され，すぐれたジョン・ロー研究として高い評価を得ている。この度刊行する『成城大学経済研究—中村英雄名誉教授追悼号』には，中村先生に縁の深い方々のご寄稿を得た。さきに記したネパールの研究者もその一人である。これが，われわれ経済学部教員の中村先生への敬愛と感謝の印になればと願っている。

最後に，中村先生ともしっかり長く同僚であられた池田浩太郎名誉教授の弔辞の結びを，私ども一同の祈りとして，ここに掲げさせて頂く。

「中村英雄教授！

今より後も変わらずに，

あなたの愛した御家族の方々を見守っていて下さい。

あなたの愛した経済学部，成城大学，成城学園を見守り続けてください。」

平成9年2月

中村英雄名誉教授追悼号編集委員会

委員長 上 野 格